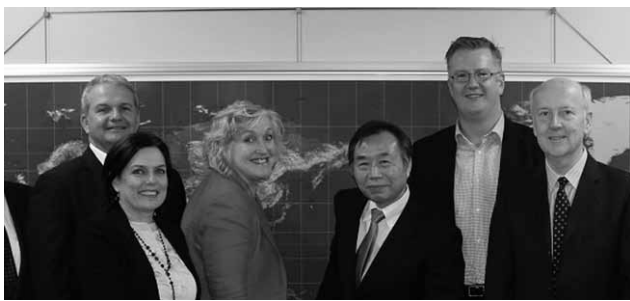


要人往来

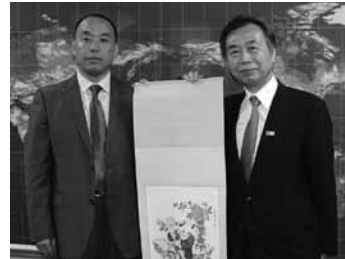
JATAが行った大手ホールセーラー5社を対象とする夏休みの販売動向調査では、日並びの良いシルバーウィークのある9月は海外旅行が前年同月比で3割増と好調な動きを示しており、日本市場に熱い眼差しを注ぐ各国の期待に応える明るい兆しも見えてきました。



クイーンズランド州観光局のコディントンCEO(中央左)と中村理事長(中央右)



チュニジアのクリフ大使(左から3人目)と田川会長(中央)



天津市旅游局の馬副局長(左)と中村理事長



モルディブのカリール大使



フィリピン観光省東京支局のバトーン東日本代表(中央)と中村理事長(右から2人目)

2020年には日本人旅行者を80万人に フィリピン 5月25日

グェンドリンS.バトーン フィリピン観光省東京支局東日本代表
就任挨拶で中村理事長を訪れ、「2015年のフィリピン観光年に続いて2016年を2カ国間の交流年とし、日本からの旅行者数を現在の年間50万人から2016年に60万人、2020年には80万人まで増やしたい」と語り、「人的交流を拡大するため、留学生交流や地方間交流、人材育成などでJATAの協力をいただきたい」と要請。中村理事長は、「JATAとしても今後の活動に協力していきたい」と応じました。

JATAと共同観光プロモーションを モルディブ 6月3日

アハメド・カリール 駐日モルディブ大使
中村理事長を訪問し、モルディブ政府が2016年を「モルディブ観光年」とすることを説明し、「2016年に向けてJATAとの共同観光プロモーションも検討しており、ツーリズムEXPOジャパンへのスポンサーシップを通じて、アジア最大の観光総合イベントを支援したい」と表明。中村理事長は、「今年からツーリズムEXPOジャパンのスポンサーシップの仕組みが新しくなるので、相談しながらオプションを決めていきたい」と応えました。

新たな観光ルートも開発 中国 6月15日

馬慶余 天津市旅游局副局長
中村理事長を訪問し、「近代の歴史や社会開発のシンボルとなる観光地を含む新しい観光ルートを作っている」と語り、9月に天津で開催される中国旅遊産業博覧会に日本の旅行業界関係者を招聘。「天津と大阪・名古屋間で直行便就航が予定されており、相互交流の拡大を図りたい」と説明しました。中村理事長は、「中国旅遊産業博覧会での情報発信だけでなく、観光需要開発のために重要な研修ツアーも中国側と協力して実施していけば、観光交流の拡大を図ることができます」と応えました。

直行便デイリー化で需要拡大に期待 オーストラリア 6月10日

リアン・コディントン クイーンズランド州観光局CEO
中村理事長を訪れ、8月からの成田／ブリスベン線での直行便デイリー化に向け、クイーンズランド州のDESTINATIONなどを紹介。「ブリスベン空港はオーストラリアで3番目に大きい空港だが、今後、特に国内線への乗り継ぎ利便性の向上を図るため、改装を予定している」と語り、「ブリスベン市は自然観光素材も豊富で、レジャーやビジネス、学生などのマーケットに力を入れて、需要を拡大したい」と説明。中村理事長は、「オーストラリアを訪れる日本人旅行者を以前の水準まで回復することは可能だと思いますが、まず、DESTINATIONとしての関心を取り戻すことが重要です」と応じました。

主要観光地で安全強化策を実施 チュニジア 6月17日

ファリド・クリフ 駐日チュニジア大使
田川会長を訪れ、「3月に発生したテロ事件後、首都のチュニスや外国人旅行者が訪れる主要観光地で安全強化策を実施している」と語り、「欧州からの旅行者は戻ってきているが、秋・冬がピークシーズンとなる日本市場での需要回復に向けて、JATAの協力をお願いしたい」と要請。田川会長は、「地中海のDESTINATIONとしてロマンチックなイメージがあり、クルーズの寄港地としても人気が高いので、需要回復への協力を図りたい。渡航情報の危険レベル引き下げに向けて、国レベルでの働きかけを続けると同時に、日本のメディアを通じて安全強化が図られているのを伝えることも重要です」とアドバイスしました。